

製品名: リン酸化 Smad2 (Thr8) /Smad3 (Thr8) ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe87735

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:20-1:50,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:52,48 kDa; Observed MW:58,62 kDa

抗原情報

遺伝子名	Phospho-Smad2/Smad3
別名	JV18; MADH2; MADR2; JV18-1; hMAD-2; hSMAD2
遺伝子 ID	4087, 4088
SwissProt ID	Q15796, P84022
免疫原	ヒト Smad2 の Thr8 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

背景

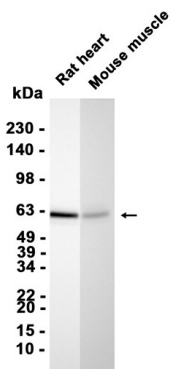
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ショウジョウバエ遺伝子「mothers against decapentaplegic」(Mad) および線虫

遺伝子「Sma」の遺伝子産物に類似したタンパク質ファミリーである SMAD に属します。SMAD タンパク質は、複数のシグナル伝達経路を媒介するシグナル伝達因子および転写調節因子です。このタンパク質は、形質転換成長因子 (TGF) - β のシグナルを媒介し、細胞増殖、アポトーシス、分化などの複数の細胞プロセスを制御します。このタンパク質は、SMAD 受容体活性化アンカー (SARA) タンパク質との相互作用を介して TGF- β 受容体にリクルートされます。TGF- β シグナルにตอบสนองして、このタンパク質は TGF- β 受容体によってリン酸化されます。リン酸化は、このタンパク質と SARA の解離、およびファミリーメンバーである SMAD4 との結合を誘導します。SMAD4 との会合は、このタンパク質の核への移行に重要であり、核内で標的プロモーターに結合し、他の補因子と転写抑制複合体を形成します。このタンパク質はアクチビン 1 型受容体キナーゼによってリン酸化され、アクチビンからのシグナルを媒介します。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012 年 5 月]

研究分野

-

画像データ



ラット心臓、マウス腎臓組織抽出物の、Phospho-Smad2 (Thr8)/Smad3 (Thr8) ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用したウエスタンブロット分析。